

単元案の概要

単元名:街角外国語ワード・ウォッチング:我々の住む町はドイツ語圏から来る観光客に優しい街かを検証しよう					
科目名	ドイツ語	作成日	2015 年 9 月 13 日	作成者	池谷尚美
学年／年次	2 年	クラス人数	1 人	使用教材	なし
話題分野	地域社会と世界	言語レベル	2	必要時間数	授業内約 2 時間(授業時間のうち 15～20 分を何回か割り当てた) + 授業外(調査、成果物の作成)
単元目標					
自分が住む街では、どのような言語を街中で見ることができるのかを調査し、その中でドイツ語を見る頻度が多い分野や、ドイツ語を使用することの効果やドイツ語のイメージなどを中心に考察する。					
コミュニケーション能力指標					
【人とのつきあい】 2-h. 定型表現を使った、簡単な手紙やメールを、書いたり読んだりできる。 【地域社会と世界】 2-b. 自分の住んでいる町や都市に対して思っていることを話すことができる。 【オリジナル指標】 ・ある外国語表記が正しいか、分かりやすいかを目標言語話者に確認できる。 ・ある外国語表記についての問題点や改善点を成果物としてスライドにまとめることができる。					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
既習の文法、文型を主に使用したため、必要に応じて既習項目を復習。			<場面状況> Y 大学ドイツ語クラスでは、自分達が住んでいる街で見かけるドイツ語を探すことにした。そのドイツ語が正しいかどうか、どのような分野にドイツ語が多く使われているか、ドイツ語が消費者に与える効果なども検証する。 <活動の流れ> ①プロジェクトの説明をし、ドイツ語が付いた商品の写真撮影など資料収集を行う。 ②成果発表の評価基準、進行予定表などの配布 ③他言語他大学クラスに向け、ウェブ上(グループウェア)で互いの学習言語と日本語で自己紹介(グループごとに自己紹介スライドの作成)。 ④収集した資料を基に、日本語とドイツ語で内容をまとめる。		

韓中独連携プロジェクト_街角外国語ワード・ウォッチング_池谷尚美（ドイツ語、横浜市立大学）

	⑤ドイツ語母語話者に連絡を取り、スライドの内容をチェックしてもらう。並びに、発音練習を行う。 ⑥日本語・ドイツ語の音声付成果物(スライド)の作成。 ⑦クラス(授業)内でプロジェクトの報告、評価・感想。 ⑧成果物(スライド)の修正、提出。 ⑨ウェブ上(グループウェア)に成果物をアップし、他言語クラスと共有して交流を図る。
評価活動	
形成的評価	総括的評価
	成果物(スライド)を自己評価 自己評価: 1)発表内容(聴き手に興味を持たせる内容か、ドイツ語を知らない人への配慮があるか)、2)ドイツ語(簡潔で的確な表現か)、3)音声(一定のテンポを持ち、明瞭で聞きやすいかどうか)、4)高度思考(日独関係について、何等かの考察を含んでいるか)、5)自由記述(成果物作成の良かった点・反省点)

3×3+3 分析表

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	街にあるドイツ語について知り、その意味を理解する。	街でよく見るドイツ語を通じて、どのような分野においてドイツ語が多く使われているのかを分析することができる。	ドイツ語を含むヨーロッパの言語が日本の街中で使われている現象を理解し、どの言語が多く使われているかを調査することができる。
できる	- 街で見つけたドイツ語について、その意味や考察を加えた成果物を日本語・ドイツ語両言語で作成することができる。 - ドイツ語を知らない聴き手を意識して、ドイツ語の意味や調べたことを分かりやすく効果的に伝えることができる。	日本の会社がドイツ語を使っている背景を分析し、日本人が抱くドイツのイメージについて考察することができる。	- 日本に輸入されている商品のドイツ語を見て、輸入品を通じた日独交流を考察することができる（高度思考） - 音声付パワーポイントを作成することができる。（ICT活用）
つながる	ドイツ語を使って、ネイティブスピーカーにドイツ語の意味について伝えたり、自分の考察を伝えてコメントをもらうことができる。		調査収集した情報をドイツ語・日本語併記した音声付成果物にまとめ、他クラスにむけて発信することができる。
三連携	【学習者】自分のごく身近にある外国語表記 【教室外】ネイティブスピーカー（留学生）、他大学他言語クラスの学生 【他教科】日独交流の歴史		